

博物館だより

No.16

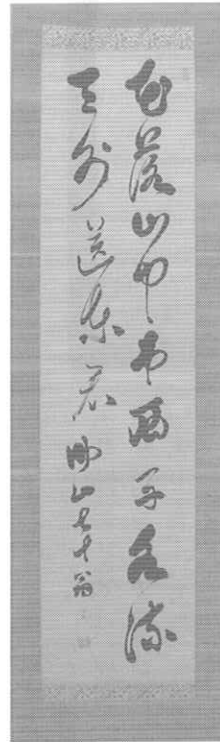
平成19年8月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

夏の企画展①

豊前地方の私蔵書画名品展Ⅱ

逸木コレクション

7月24日～8月26日



▲村上仏山 書

現在、当館では「豊前地方の私蔵書画名品展Ⅱ」逸木コレクション」を開催しています。

この企画展では、逸木俊司氏（みやこ町勝山松田）から、平成18年度にご寄贈いただいた書画・刀剣類を展示しています。いずれの展示品もまさに「逸品」ばかりです。ぜひ、ご来館ください。

■会期 8月26日（日）まで
■場所 当館展示室
■主な展示品

◎近世・近代の文人等書画
村上仏山・末松謙澄・吉田学軒・広瀬淡窓・広瀬旭莊・長三洲・亀井昭陽・即非・紫石・松室致・奥保章 他

◎刀剣類
特別重要刀剣・重要刀剣を含む刀剣・刀装具
■観覧料 常設展の観覧料でご覧いただけます。

夏の企画展②

COOL! (クール!)

ガラス瓶の歴史と美

7月31日～9月2日

7月31日より、夏の企画展第2弾「COOL!」ガラス瓶の歴史と美」も同時開催しています。

日本人とガラスの関わりは弥生時代までさかのぼりますが、古代ではガラスは金よりも高価であったとみられます。今回の企画展では、そんなガラス瓶の歴史とともに、透明な美しさによる「涼」を楽しんでいただきたいと思います。

■会期 9月2日（日）まで
■場所 当館中央展示室

■展示品
◎個人からの借用資料
テクタイト・モルダバイト（天然ガラス）、ローマンガラス

8月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

8月2日（木）9：30～

【古典かな講座】

8月9日（木）9：30～

【古文書講座】

8月4日（土）10：00～

【初級古文書講座】

8月24日（金）10：00～

【みやこ学講座】

8月19日（日）9：00～



（ローマ時代に作られたガラス）、幕末期～昭和初期にかけてのラムネ瓶、一八〇〇年代～現代までのコーラ瓶

◎遺跡からの出土瓶
薬瓶・酒瓶・化粧瓶など
■観覧料 常設展の観覧料でご覧いただけます。

博物館友の会主催
文化講演会のお知らせ

今回は文化財と「色」の関わりについて研究されている専門家をお招きし、左記のテーマでお話いただきます。豊前国分寺にまつわる色のお話もしていただけるので、おすすめです。皆さんふるってご参加下さい。

■日時 平成19年8月25日（土）午前10：00～

■場所 博物館研修室
■講師 東京文化財研究所 主任研究員 朽津 信明氏

■演題 「赤と青、古代と近代」
■備考 聴講にあたり資料代として300円をいただきます。なお友の会会員については資料代は不要です。

■お問合せ みやこ町歴史民俗博物館
TEL 33-4666

歴史たんけん作文
コンクール作品募集!

博物館友の会では、小学校5・6年生を対象に「歴史たんけん作文コンクール」の作品を募集中です。自分の町の歴史や家族に聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想など、歴史のことなら内容は自由です。ふるって応募下さい！
くわしくは博物館だより7月号をご覧ください。なほ博物館までお問い合わせ下さい。

知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラマ...

みやこの歴史発見伝 ⑤

失われた梵鐘の記録

大砲になった梵鐘

幕末の文久三年（一八六三）、小倉藩は外国船襲来に備えて関門海峡沿岸に砲台（台場）を築き、大砲を据え付けました。とりわけ、小倉城下の紫川河口に造られた二つの台場（東浦浜台場・西浦浜台場）は、総延長が約一八〇m以上に及ぶ大規模なもので、そこに据え付ける大砲は既存のものでは不足でした。そこで藩は、領内の寺院・神社から梵鐘を徴発し、城下近くの企救郡篠崎村（現小倉北区）に設けた铸造所で大砲に替えたのです。梵鐘を毀して大砲に替えることを四字熟語風に「毀鐘鑄砲」と言います。毀鐘鑄砲と言え

ば、昭和十六年（一九四一）に施行された金属回収令を一番に思い浮かべますが、旧小倉藩域では、既に幕末期に始まった梵鐘が一度失

われてしまいました。金属回収令により徴発されたのは、大半が明治以降、新規に購入・铸造されたものだったようです。

仲津郡諸寺院梵鐘書上帳

文久の毀鐘鑄砲、昭和の金属回収令という「ダブルパンチ」により、幕末期以前のこの地域にどのような梵鐘が、どのくらいの数あったのか、といった点について、現存するものからは当然調べることができません。

ただ、幸いなことに、旧仲津郡（現みやこ町犀川・豊津と行橋市の一部）については安政二年（一八五五）に行なわれた寺院梵鐘の所在調査史料「仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」（九州大学記録資料館所蔵永井文書。以下、「安政二年書上帳」と仮称）が現存しているの



▶永井文書「安政二年 仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」(九州大学記録資料館所蔵) 永井文書は仲津郡長井手永(現みやこ町犀川の部)の大庄屋文書

安政2年(1855)仲津郡所在の梵鐘鑄物師と鑄造年

居住地	鑄物師	鑄造年
小倉	河野吉三郎尉(森□)	1717
	河野次(治)郎右衛門(藤原森重)	1714 1724 1716
	河野吉兵衛(藤原森次)	1775 1783
	吉村真次	1697
	吉村伊右衛門(寧次)	1724
	吉村弥兵衛(正次)	不明
	吉村弥兵衛(吉次)	1792
	安部治右衛門尉	1689
(権田?)	石火矢屋吉十郎(貞俊)	1706
中津	孫兵衛(藤原時次)	1822
	寿渡扇	1838
豊後高田	安部弥助(秀信)	1833
	植木来吉(藤原光重)	1829
	植木藤吉(藤原秀延)	1725
	(鑄屋)寿右衛門	1840

【史料】「安政二年仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」(永井文書)

で、文久の毀鐘鑄砲以前の様子を知らることができません。安政二年、幕府は全国の諸藩に対し毀鐘鑄砲を命じましたが（ただし、形式的には朝廷が命じた形をとる）、小倉藩ではそれを受けて領内寺院の梵鐘調査を実施し、郡ごとにまとめさせました。安政二年書上帳はその仲津部分です。ただ、結局この幕府毀鐘鑄砲令は、同年一〇月に江戸でおきた安政大地震の影響で実行されずに終わってしまいました。小倉藩でもこの時鑄潰された鐘はありませんでした。

安政二年仲津郡内の梵鐘

安政二年書上帳によると、当時仲津郡には四七ヶ寺に五四口の梵鐘が存在しました。郡内には大小一〇〇程度の寺院がありましたの

で、およそ半数が梵鐘を所持していたこととなります。また、安政二年書上帳には梵鐘の銘文も書き上げられていて、鐘によつては作成年や作者（鑄物師）の名を刻んだものもありました。それによると、当時、仲津郡内の寺院梵鐘で、作成年が刻まれたものは三一口あり、それらは全て江戸時代の作でした（一七世紀三口・一八世紀一三口・一九世紀一五口）。また、鑄物師の名が刻まれたものは一九口ありましたが、その鑄物師ごとく作成年をまとめたのが右の表です。これを見ると小倉鑄物師の作品は不明の一口を除いて一七・一八世紀に限られ、豊後高田（現大分県豊後高田市）のものは一八世紀の一口を除いて一九世紀の作です。

また、この表には書いていませんが、豊後高田の鐘を持つのは、山間の小堂・小寺院に限られています。なぜこういう分布なのか、詳細は今のところ不明です。

安政二年書上帳にある鐘で最も古いのは、今井村（現行橋市）浄喜寺の大鐘です。この鐘は、江戸時代初期に当地方を治めた細川忠興が、慶長七年（一六〇二）に寄進したものでした。とても出来の良い梵鐘だったようですが、この鐘は現存していません。おそらく文久の毀鐘鑄砲で鑄潰されたのでしょう。現在、浄喜寺には応永二八年（一四二二）今井鑄物師・藤原安氏作の大鐘（福岡県指定文化財）があります。これは元々英彦山にあった鐘ですが、明治初年の神仏分離・廃仏毀釈の流れの中で売却されました。それを明治五年（一八七二）に小倉出身で当時豊津在住の中原嘉左右という豪商が購入しています（「中原嘉左右日記」）。おそらく、それから間も無い時期に、中原嘉左右が浄喜寺へ寄進したものでしょう。

願

今まで調べた範囲で、安政二年書上帳にある梵鐘五四口の現存は確認できていません。調査が進むにつれて発見されるものもあるかもしれませんが、殆どは文久の毀鐘鑄砲で失われたことでしょう。もうすぐ終戦記念日。鐘が鑄潰されるような時代が二度とこないことを心から願いたいものです。（川本英紀）